

第 5 回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和 4 年(2022 年)9 月 27 日(火) 午後 3 時 00 分～

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2 階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員、小野寺委員

【市民委員】

新井委員、高橋委員、比留間委員、加納委員、畑中委員、平井委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、新野委員、多治見委員、津嶋委員、後藤委員、内田委員

【環境保全課長】

中平委員

【施設課長(クリーンセンター長兼施設課長)】

小笠委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

高尾課長、高橋課長補佐、山口主任

欠席者 **協議会委員**

【市民委員】

佐藤委員、影山委員、木村委員、岩見委員、星野委員

傍聴者 なし

次第

1. 会長挨拶
2. 施策紹介「レジごみ袋、ジモティースポット日野」
3. 令和 3 年度清掃概要(速報版)
4. プランの中間検証・改定について
5. 学生の発表(他市と日野市との施策の比較)
6. 今後の協議会の進め方について
7. その他

配布資料

- 資料1 プラごみの削減へ 一枚二役“レジごみ袋”
- 資料2 ジモティースポット日野チラシ
- 資料3 日野市の清掃概要(令和3年度速報版)
- 資料4 第3次日野市ごみゼロプラン(日野市一般廃棄物処理基本計画)の中間検証と後期に向けたプランの改定について(素案)のたたき台
- 資料5 第3次ごみゼロプラン中間見直し・改定用の回答シート(まとめ)
- 資料6 今後の協議会の進め方について

■主な内容

1. 会長挨拶

会長より挨拶。

2. 施策(実証実験)紹介

・「レジごみ袋」

NHK の報道番組で放送された映像を紹介し、新しい指定収集袋「レジごみ袋」について、事務局より資料1に沿って説明。

・「ジモティースポット日野」

7月より(株)ジモティーと行っている粗大ごみ再利用の取組みについて、事務局より資料2に沿って説明。

【質疑応答・意見等】

Q: 「レジごみ袋」は日野市が独自に考えた施策か。

A: 先行して千葉市でもやっていた。日野市では、市内にある明星大の協力で、学生がデザインした袋を市内の店舗で取り扱っていただいております、産官学の連携が特徴。

Q: 「ジモティースポット」も他自治体でやっているか。

A: 世田谷区で先行しており、9月には八王子市も始めた。

意見: 日野市は時期が良かった。プラ削減という世の中の流れもあり、近隣市からも注目を集めている。

3. 日野市の清掃概要(令和3年度速報版)

事務局より、資料3 日野市の清掃概要(令和3年度速報版)について説明。

【質疑応答・意見等】

意見: 1人1日当たりごみ量が少しずつ減る傾向が戻ってよかった。

Q:売れている資源物の項目は何か。

A:古布は逆有償だが、他は売れている。特に鉄・アルミの単価が上がっている。

意見:古布についても、現在は逆有償の状態は解消されている。

Q:エネルギーコストの上昇による令和4年度のごみ処理費への影響はどうか。

A:12月に補正予算を組むが、グリーンセンターでは2割くらいのコスト増を考えている。

Q:ダイオキシン類排出濃度の測定は年2回か。

A:令和元年度までは旧施設にて年2回測定している。

4.第3次日野市ごみゼロプラン(日野市一般廃棄物処理基本計画)の中間検証と後期に向けたプランの改定について(素案)のたたき台

事務局より、第3次日野市ごみゼロプランの中間検証と、後期に向けた改定プランのたたき台について、資料4・資料5に沿って説明。

【質疑応答・意見等】

Q:事業者による資源物回収だけでなく、行政回収も行っていくべきではないか。

A:市民の排出する資源物を行政が責任もって回収することを前提に、事業者の資源回収も利用していただいている。

Q:今までごみにしていたものを資源にしていこうという考え方があるので、総資源化率を参考指標としても、資源化に関する何らかの指標は欲しい。

A:分別の精度は上がってきている。今後も分別の状況は確認していきたい。

Q:基本的に、あらゆるものは資源になるので、大事にしていきたい。

A:ごみにせず、きれいにして資源にすることをPRして、資源化率の向上は今後も図っていく。

意見:日野市の人口はこの3年で横ばいになってきた。人口減少に転じることも想定して施策を考えていくことも必要。

意見:2050年のゼロエミッションに向けて市民が取り組めるように、過去のトレンドにあまりとらわれず、新しいライフスタイルを取り入れた施策にするとよい。

Q:ペットボトルが散乱し、海ごみの原因となる。いかにきちんと回収するかが大事。自販機横の回収ボックスの管理を事業者と約束できないのか。

A:市に自販機の許認可権限はないので直接の指導は難しい。

意見:回収ボックスにごみを入れられてしまうと事業者の負担となる。ごみを入れられない仕組みを事業者と共に考えていくスタンスが大事。

(会長):今出た意見も踏まえ、このたたき台を素案として、改定を進めていく。

5. 学生の発表（他市と日野市との施策の比較）

学生委員より、日野市のごみ減量・リサイクル等の施策についての感想や意見を発表。

（発表）

- ・日野市はごみの減量に力を入れている。袋の大きさ・サイズが豊富でごみを最小限に抑えようという意欲につながる。
- ・レジごみ袋はデザインにまで工夫をしていることに感心。
- ・プラの資源化については、出したプラごみがどこに行き何になっているのか。もっと市民に分かればおもしろい。
- ・ごみ袋自体もプラごみのリサイクル素材で作れたら素晴らしい。
A: 容器包装プラはマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルが 50% ずつくらい。製品プラは RPF（固形燃料）やサーマルリサイクルに使われている。
A: レジごみ袋にはバイオマス原料を 25% 使用している。生産コストとのバランスが問題。
意見: 30 周年の回転市場では、設立当初からマイバッグ持参をお願いしていた。今はレジ袋がないのが当たり前になっており、マイバッグが浸透している実感がある。

6. 今後の協議会の進め方について

事務局より、改定プラン策定など今後の協議会の進め方について、資料6に沿って説明。

意見: この協議会の場合だけでなく、幅広く市民の方に現状を知ってもらう場があるとよい。

意見: もっと市民の実感に近づけるような、心に刺さるような啓発のあり方を考えたい。

次回 令和 4 年 11 月 15 日 (火) 午後 3 時～午後 5 時

クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室